



2026年7月8日

日本鉄道労働組合連合会

J R 四 国 労 組 第 4 5 回 定 期 大 会

安全・安心な職場づくりと明るい未来に向けて、運動方針を決定!

J R 四 国 労 組 は 7 月 3 日、高松市内において第 4 5 回 定 期 大 会 を 開 催 し、2026 年 度 の 運 動 方 針 を 満 場 一 致 で 決 定 し た。

なお、大会成立確認の際、女性の参画率も発表され、役員・代議員を合わせた女性の割合が女性の組合員比率を初めて超えたことが確認された。



中村執行委員長

上村会長

冒頭、挨拶に立った中村鉄平執行委員長（JR連合副会長）は、組合員の日々の奮闘に謝意を示すとともに、2025年度に発生した3件の死亡労災事故に触れ、悲劇を二度と繰り返してはならないとの決意を述べた。続けて、安全・安定・安心輸送の確立、組織の強化・拡大、労働環境の改善や政策課題解決に向けた政治の取り組みについて所信を表明。「来年、40周年を迎えるにあたり、一層持続可能性を高められるような組織づくりを目指して邁進しよう」と呼びかけた。

J R 連 合 か ら は 来 賓 と し て 上 村 良 成 会 長、石川敏也産業政策局長が参画。代表して上村会長が挨拶し、JR産業における死亡労災の発生状況に警鐘を鳴らすとともに、安全指針の改訂といった取り組みを通じて安全の確立を引き続き目指すと述べた。加えて、政策に関しては四国新幹線に言及し、大臣要請の実施といった労働組合ならではの成果を示した。

全員参加の持続的な運動を創り上げるべく、力強い一步を踏み出す!

議事では2026年度の運動方針等が提起され、11名の代議員、特別代議員より安全確立、労働条件の改善や四国新幹線の実現等に係る要望や質疑を受け、執行部の中間答弁および中野圭司書記長の総括答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。

最後に、中村執行委員長の力強い「団結ガンバロー」で定期大会を締めくくった。

